

第1回放課後対策事業運営委員会 会議概要（議事録）

日 時 平成24年5月21日（月） 午前14時00分から午前16時00分

場 所 市役所分館 大会議室

出席者

委 員 増田 正夫(委員長)、金子 博之(副委員長)、北原 靖子、蓮見 元子、山宮
文昭、津嶋 みゆき、深井 由香、東 由美、手塚 萌、中嶋 康貴、松本 守
正、屋田 治美(代理)、深谷 幸子、森井 貴美子、熊谷 ひろみ、鷺見 政
夫

事務局 子ども支援課：相良、尾高

コーディネーター：古高、佐藤、

事前説明

- * 議事録作成のため、録音について
- * 会議の公開及び傍聴要領（案）の承認について
- * 委嘱状・辞令の交付について

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 委員自己紹介及び事務局紹介
4. 本委員会の任務及び平成24年度年間スケジュールについて
5. これまでの経過説明
 - (1) 我孫子市における放課後対策事業における検討経過について
 - (2) 平成24年度学童保育室入室状況について
 - (3) あびっ子クラブにおける1年間の活動状況について
 - (4) 平成24年度あびっ子クラブ登録状況について
6. 今年度の取組みについて
 - (1) 各あびっ子クラブ及び学童保育室の活動状況について
 - (2) 平成24年度放課後対策事業における主要事業について
7. その他
次回以降の運営委員会開催の日程について
8. 閉 会

公開/非公開 公開

傍聴人 無

会議概要（要約）

【開 会】

- ・ 議事録作成のため、録音させていただきたいがよろしいか。[異論なし]
- ・ 「会議の公開に関する情報公開条例」、「審議会等の会議の公開に関する規則」に基づき、原則公開としたい。また、会議の公開にあたり、傍聴に関するルールを定めた「傍聴要領」(案)を作成しましたので、ご承認いただきたいがよろしいでしょうか。[異論なし]
- ・ 異論がありませんので、「傍聴要領」に沿って、傍聴人の手続きを行わせていただきます。本日は、傍聴人の届け出はありませんでした。
- ・ 委嘱状については、委員の机の上に置かせていただいていますので、ご確認ください。

1. 委員長あいさつ

本委員会委員長であります、子ども支援課長です。

第一回放課後対策事業運営委員会にお集りいただき、ありがとうございます。

放課後対策事業として、学童保育及びあびっ子クラブの運営について、皆さまから貴重なご意見いただきたいと思っておりますので、よろしく願います。

2. 委員自己紹介及び事務局紹介

(副委員長)今年度、学校教育課に就任しました。みなさんと一緒に勉強しながら参加させていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(委員)湖北台西小学童保育室父母会に所属しています。よろしくお願いいたします。

(委員)我孫子市学童保育連絡協議会副会長です。子どもは湖北台東小学校の3年生で学童保育室に通っています。初めての参加でわからないことがたくさんありますが、勉強させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(委員)一小あびっ子クラブサポーター代表の代理として参加しています。よろしくお願いいたします。

(委員)根戸小あびっ子クラブサポーターの代表です。よろしくお願いいたします。

(委員)根戸小あびっ子クラブのコーディネーターです。よろしくお願いいたします。

(委員)湖北台西小あびっ子クラブのコーディネーターです。よろしくお願いいたします。

(委員)市民の代表として、また、子ども総合計画市民推進委員として参加させていただいています。よろしくお願いいたします。

(委員)我孫子市生涯学習課から参加しています。よろしくお願いいたします。

(委員)我孫子市青少年相談員代表として参加しています。よろしくお願いいたします。

(委員)根戸小PTA代表です。よろしくお願いいたします。

(委員)湖北台西小PTA代表です。湖北台西小では、来月からあびっ子クラブが始まりますので、いろいろな勉強をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(委員)我孫子第三小学校長です。よろしくお願いいたします。

- (委員) 川村学園女子大学教育学部児童教育学科の教授です。子どもたちの放課後の在り方について危機感を持っており、教育心理学的な調査・研究を続けています。今年度は科研費が取れたので、皆さまにご協力いただき、調査ができるとうれしく考えていますので、よろしくお願いいたします。
- (委員) 川村学園女子大学文学部心理学科の教授です。地域の大学としては、学生をサポートとしてあびっ子クラブに送り出し、学生も勉強させていただいています。今年度もよろしくお願いいたします。
- (委員長) みなさまありがとうございました。
子ども支援課長です。不慣れな進行になりますが、よろしくお願いいたします。
続いて、事務局の自己紹介をお願いします。
- (事務局) 事務局を務めさせていただきます子ども支援課主査長です。よろしくお願いいたします。
今年度からの事務局体制についてご報告させていただきます。
昨年度までは、全あびっ子クラブのコーディネーターが委員として参加してきましたが、あびっ子クラブが毎年1校ずつ増えており、現時点で4校となっています。そこで、委員としての参加は2名とし、その他のコーディネーターは事務局として参加し、各あびっ子クラブの運営に関する報告をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
なお、本日、民生委員・児童委員代表として参加予定の委員については、民生委員の地区勉強会と重なってしまったため、残念ながら欠席とのご報告をいただいていますので、よろしくお願いいたします。
- (事務局) 事務局を務めさせていただきます子ども支援課主事です。よろしくお願いいたします。
- (事務局) 今年度から事務局での参加となります。一校あびっ子クラブコーディネーターです。よろしくお願いいたします。
- (事務局) 今年度から事務局での参加となります。三校あびっ子クラブコーディネーターです。よろしくお願いいたします。
- (委員長) それでは、議題に入らせていただきます。

3. 本委員会の任務及び平成23年度年間スケジュールについて

- (委員長) 本委員会の任務についてです。本委員会は「我孫子市放課後対策事業運営委員会設置要綱第2条」に位置付けられています。
- 1点目の「我孫子市における総合的な放課後対策事業の運営に関すること」については、6月にオープンする湖北台西小あびっ子クラブを含めた学童保育とあびっ子クラブの一体的な運営方法、利用状況や活動状況など運営に関する検討を行います。また、5校目となるあびっ子クラブの設置及び運営方針についても検討を行います。
- 2点目の「我孫子市における総合的な放課後対策事業の検証及び評価に関する

こと」については、学童保育とあびっ子クラブの運営に関する検証及び評価をすることとなっています。

3点目の「我孫子市における総合的な放課後対策事業の問題点などの分析及び改善方策の検討などに関すること」については、学童保育とあびっ子クラブの一体的な運営における問題点などを分析及び改善方策の検討を行い、今後の事業推進を図るものです。

次に、スケジュールについてです。

本日、第1回目は、これまでの経過報告及び今年度の取り組みについて行います。第2回は8月20日に開催します。議題は、あびっ子クラブ及び学童保育の運営について、湖北台西小学校における進捗状況、今後の事業推進を予定しています。第3回は11月19日に開催します。議題は第2回と同様の内容を予定しています。第4回については、2月の下旬を予定していますが、会場の関係で未定となっています。

本年度は、会議室を押さえることが非常に難しい状況となっているため、第3回まではあらかじめ日程を決めさせていただきました。

(委員長)ここまでご質問はありますか。ないようでしたら、次の議題に入ります。

4. これまでの経過説明

(1) 我孫子市における放課後対策事業における検討経過について

(事務局)我孫子市では、これまで小学生の放課後対策事業として“学童保育”事業を行ってきました。平成8年公設公営になって以来、現在は市内13小学校に17保育室が設置されています。根戸小学童保育室をはじめ、児童数が多い学童は分室しているため、17保育室となっています。学童保育室は、主に就労支援を目的とし、保護者が就労により家庭で保育できない子どもたちをお預かりする施設です。そのため、放課後から夜7時までと保護者の方たちが働いている時間帯に開室しています。夜7時まで保育室にいる子どもたちは家に帰るまでお腹が空いてしまうため、各保育室の父母会において約2,000円前後のおやつ代を徴収し、スタッフがおやつを提供しています。また、学童保育料として毎月8,000円、8月のみ12,000円を市が徴収しています。この学童保育室に加え、新たに小学生の放課後対策事業として“あびっ子クラブ”を展開してきました。平成16年、小学生を対象とした「児童館機能をもつ子どもの居場所づくり」構想が持ち上がりました。しかし、新たな施設を建設することは難しく「児童館機能をもった施設」を小学校の転用可能教室を利用して展開する“あびっ子クラブ”として平成19年6月に我孫子第一小学校にモデル事業として設置しました。小学校の全面的な協力をいただき、スムーズな運営ができました。そうした中、2校目の設置に向けて検討する上で、同じ小学校の敷地内に設置目的が違う“学童保育”と“あびっ子クラブ”ではあります

が、子どもたちが一緒に遊んで安全・安心に過ごすという意味での目的は同じなので、この両事業をどうにか融合出来ないのかという点について検討するべきであるとの見解が「子どもの居場所事業検討委員会」において平成19年度報告されました。その報告を受け、平成20年度「我孫子市放課後対策事業検討委員会」を立ち上げ、モデル事業である一小あびっ子クラブの運営状況、費用対効果などを検証し、あびっ子クラブと学童保育の一体的な運営をどのように実現するのかを検討しました。当時の全国的な放課後対策事業の流れとしては、文部科学省において新たにスタートした“全児童対策事業”である“放課後子ども教室”を設置し、学童保育を廃止するという動きがありました。近くでは、取手市において実施されています。その状況を受け、我孫子市の学童保育の保護者の方たちも学童保育がなくなってしまうのではないかと不安を持たれました。我孫子市の学童保育は、保護者の方たちとともに作り上げてきた歴史、積極的に障がいのある児童を受け入れている実績があるという背景があったため、保護者の方たちとの話し合いを重ね、学童保育室は現状のまま維持し、あびっ子クラブを設置することとしました。その上で両事業を融合するためにスタッフの一元化を図りました。同じ時間、同じ学校施設で過ごす子どもたちの安全・安心を図るために最も重要なのは、スタッフが共通認識を持って子どもたちに対応することが大事であること、また、経費節減のため、現在のようなスタッフ体制としました。スタッフは、両事業に携わっているので苦労はあると思いますが、コーディネーターをはじめ、スタッフが非常がんばっていることが、今日のあびっ子クラブの成功に繋がっていると自負しています。我孫子市の最終目標は、市内全小学校にあびっ子クラブを設置することです。しかし、設置していく上では課題も出てきます。その出てきた課題を検証し、次の設置校に反映していくことが必要だと考えています。そこで、より現場で密接な話し合いができるよう、あびっ子クラブ設置小学校ごとに「サポーター会議」と「運営会議」を設置し、市全体で放課後対策事業について検証・検討するために本委員会である「放課後対策事業運営委員会」を設置しています。実際に、2校目となる根戸小あびっ子クラブを設置する際には、モデル校設置から3年が経過しており、一小あびっ子クラブとは児童規模も倍近く違っていたため、市としてもどのような運営を目指したらよいのかを模索してきました。そこで、運営委員会で委員の皆さまと意見交換しながら運営方針などを検討しました。今後も、運営委員会において、コーディネーターから各あびっ子クラブの運営状況の報告をしますので、委員の皆さまにはぜひ忌憚のないご意見をいただければと思います。

次に「学童保育室施設整備計画」及び「あびっ子クラブ推進計画」について説明します。平成16年3月に策定された前「学童保育室施設整備計画」においては、学童保育室の老朽化に対応するための計画が主となっていました。平成22年度に完成した高野山小学童保育室の建替えをもって、老朽化対応整備は

全て完了しました。現在の学童保育室における最大の課題は、大規模化する学童保育室への対応です。国・県で示している学童保育室の基準は、1部屋あたり40人規模の保育室です。そのため、40人を超える保育室においては、分室をするべきであるとの保護者の声もあります。平成21年度、「学童保育室施設整備計画」を策定した際には、国から71人以上の保育室への補助金を打ち切るという提案がなされました。実際には、市町村で予算が確保できず、分室整備が進まないため、補助額は少なくなりましたが、補助制度は残っています。このような国の動きを受け、「学童保育室施設整備計画」においては、大規模化する保育室を緊急的に整備する保育室として位置づけています。このような状況下において、平成18年当時、登録児童数80人と大規模化が進み、分室を余議なくされていた一小学童保育室は、平成19年6月に一小あびっ子クラブが設置されると児童数が除々減少し、分室をすることなく現在の保育室で運営を続けることができ、あびっ子クラブの設置が大規模化する学童保育室の緩和策として有効な施策であると実証されました。そのため、「あびっ子クラブ推進計画」においては、あびっ子クラブを設置する際の優先順位が一番が、大規模化する学童保育室のある小学校区であるとし、学童保育室の状況を踏まえながらの整備を検討することとしています。そのため、2校目のあびっ子クラブの設置は、大型マンション建設の影響で学童保育の需要が急増した根戸小学校となりました。根戸小学童保育室については、学校の児童数が毎年100人単位で増え、学童保育室の利用者は平成21年度時点で150人を超える推計が出ていたため、新たに2階建てプレハブの学童保育室を新築し、保育室の分室も併せて行いました。続く3校目のあびっ子クラブの設置も、小学校の児童数が増加し、140人規模となり分室することが難しかった三小学童保育室のある第三小学校となりました。計画上の優先順位から4校目以降のあびっ子クラブ設置を検討すると、第四小学校・新木小学校・高野山小学校が考えられます。しかし、現状ではこの3校にメインルームとなる教室が確保できないため、断念せざるをえませんでした。そこで、次に検討する上で考慮したのが地域性です。我孫子市は東西に細長い地域です。子どもが多い地域もあれば少ない地域もあります。しかし、「我孫子市の子どもには変わりはない。」という前教育長の意向も踏まえ、4校目は、地域性に配慮するとともに数年来学校長から設置要望のあった湖北台西小学校に設置することとなりました。現在、小学生の子どもをお持ちの保護者の方からは、早く自分の小学校にもあびっ子クラブを設置してほしいとの声が多数寄せられています。そのため、5校目以降の設置については、学童保育室の状況や地域性に配慮しつつ、保護者・学校・地域からの要望があり、学校にメインルームを確保できる小学校に順次設置していきたいと考えています。

このように、2つの計画は連動して策定されていますが、小学校の児童数や学童保育の需要など、情勢は常に変化しています。策定当時は、新木小学校の児

童数が増加傾向にありましたが、現時点で急速に増加しているのは第四小学校です。そのため、計画を踏まえた整備は考慮するものの、早急に対応しなくてはいけない案件については、随時検討しながら進めていきたいと考えています。以上です。

(委員長) これまでの経過説明についてご質問やご意見がありましたらお願いします。

(委員) あびっ子クラブの設置を検討する当初から関わっていますが、モデル校ができてから、2校目以降の設置検討に時間を要していたので、2校目の設置が5年6年と時間が経過してしまうのかと心配していましたが、現在は毎年1校ずつ設置できているので、非常に良かったと感じています。事務局の説明の中で、優先順位はその時の子どもの状況によって変えていかななくてはいけないということが大変だと感じました。あびっ子クラブの検討が始まった頃は、第四小学校の児童数は減少傾向にあり、新木小学校は住宅建設により児童数が増加していました。住民の流入出により、市の施策を変更していかななくてはいけないことは大変だと思いました。

(委員長) 一校あびっ子クラブを始め、2校目3校目もスムーズな運営ができ、評判もよいので、自分の小学校にもあびっ子クラブを作ってほしいという声がたくさんあります。しかし、市の財政状況からは、1年に1校ずつしか整備できない状況です。計画策定当時とは状況も変わってきているので、随時検討をしながら整備していきます。

(2) 平成24年度学童保育室入室状況について

(事務局) 平成13年度からの集計結果をご提示していますが、平成13年度561人であった児童数が平成19年度に900人とピークを迎え、平成24年度は772人となだらかに減少しています。地区別にみると、湖北・布佐地区は減少傾向にありますが、根戸小学校や第四小学校のある我孫子地区は増加傾向にあります。昨年11月に保育園などを対象に行った平成24年度学童保育利用予定者調査の結果では、全体的には800人を超える方が学童保育利用を希望していましたが、実際には、家庭で保育ができるようになった等の理由により、申請者は800人を切っている状況となっています。着目する点は、児童数が毎年100人単位で増加している根戸小学校と、市内2番目に児童数が多い第三小学校において、学童保育の児童数が増加していないのは、あびっ子クラブの設置が大きく影響していると考えられることです。以上です。

(委員) 子どもが増えているだけでなく、働く親が増えているので、学童保育を利用したい人も増えているのだということがわかりました。

(委員長) 市内の学童保育室では人数のバラツキが見られますが、事務局として今後の学童保育室に対する大きな考えはあるのでしょうか。

四小学童保育室については、小学校の児童数が急増していることに伴い、定員超えの状態が続いているので、急きょ新築の検討をしていますが、布佐南小学

童保育室のように児童数が非常に少ない地域もあるので、今後の方針なども含めてこの委員会で検討していくということによいのでしょうか。

(事務局) 四小学童保育室の方針については、後ほど議題の中でご報告します。

布佐南小学童保育室については、平成24年5月1日時点の児童数が11人となっています。4月1日時点では、8人しか登録がありませんでした。学童保育利用者は夏休みを過ぎると減少する傾向にあります。そのため、布佐南小学童保育室においては、10人以下になる可能性が大きいです。10人以下の保育室となると、100万円単位で国の補助金が受けられない状況となり、市の財政状況としては大打撃を受けることとなります。今後の布佐南小学校の児童数の推移を教育委員会に確認している中では、学区の見直しをしてもそれほど増加することはないという回答をいただいています。このような状況から考えると、布佐南小学童保育室の児童数も大幅に増加することはないと考えています。そこで、今後の布佐南小学童保育室の在り方を検討してなくてはならないということは、昨年度からスタッフには話しており、今後、保護者の意見も聞きながら検討したいと考えていますので、進捗状況は随時報告させていただきます。

(3) あびっ子クラブにおける1年間の活動状況について

(委員長) 各あびっ子クラブのコーディネーターから報告してもらいます。

まず、根戸小コーディネーターからお願いします。

(委員) 根戸小学校の報告をします。

根戸小あびっ子クラブは、平成22年10月にオープンしました。

平成22年度の利用状況は、半年間の平均利用人数が、55人となっています。オープン当初、サポーターさんによるチャレンジタイムはショートテニスやグラウンドゴルフなどからスタートしましたが、今ではお箏や書き方、消しゴムハンコなどが増えてきました。平成23年度には、宿題などをみてもらうスタディタイムや、お話し会、まりつき、クリスマスシース作り、工作など、サポーターのみなさんのご協力で盛りだくさんの内容となっています。

今年から、スタッフの体制が変わりました。

これまで、あびっ子クラブの立ち上げから運営については、コーディネーター1人がその全てを担ってきました。しかし、あびっ子クラブが拡大していく中で、コーディネーターの負担が多いため、昨年度、スタッフと子ども支援課で話し合いを重ね、大規模学童保育室が併設されている根戸小と三小あびっ子クラブについては、準専任スタッフを配置することとなりました。また、新規にあびっ子クラブを設置する場合にも、半年から1年間は、重点的にあびっ子クラブに勤務するスタッフを配置することとなりました。まだ、始まったばかりの体制ですが、力を合わせてやっていけたらと思います。

5月から1年生を含めた新年度の利用がスタートしました。1317人の児童

数に対して870人の登録がありました。登録率は1年生が86%、2年生が92%、3年生が87%、4年生が63%、5年生が38%、6年生が16%と高学年になるに従って減少しています。実際の利用状況を見てみると、昨日5月20日までに6年生の利用は0人、5年生の利用も1ケタ台となっています。1年生の1日から18日までの利用状況は平均で33人前後となっており、一般の子どもが10人前後、学童保育に登録している子どもが20人前後という内訳になっています。このように学童保育に登録している子どもたちの利用は非常に多く、毎日100人前後の利用があります。学童保育室の最近の様子としては、4月に新入生歓迎会を、5月に4・5月生まれの子どもたちのお誕生日会を行いました。

昨年度から、サポートの必要な子どもたちのあびっ子クラブ利用について検討していますが、根戸小あびっ子クラブでは1人で利用できるのかを把握できていないので、今後はサポートの必要な子どもたちが利用しやすいあびっ子クラブを目指すために検討しています。

5月1日現在で30の方がサポーターとして登録しています。お話し会をしてくれるサポーターさんが現在3人いるので、月3回実施できるようになりました。皆さま非常に協力的で、新しく登録して下さる方も少しずつ増えています。

しかし、今年は学校の除染工事により校庭や体育館が利用できないため、バドミントンやショートテニスなどは中止せざるを得ない状況となっています。また、他の場所が利用できないので、メインルームだけで過ごしている状況が続いています。隣の小交流教室が利用できる時は、多少ゆとりをもって遊べるのですが、小交流教室を他の団体さんが利用している時はメインルームだけなので、利用人数が多い根戸小ではとても大変な状況となっています。

学校との連携の中で、意思の疎通がうまくできていないことがありました。

例えば、体育館を利用する予約をしておいたのですが、当日になって利用できないと断られ、予定していたことができなかつたということがありました。このようなことがここ最近で3回ほどありましたので、学校との連絡をもっと密にしていかななくてはならないと考えています。以上です。

(委員長) 根戸小の報告について、ご質問・ご意見などありましたらお願いします。

(委員) 自分の子どもは今年4年生になりますが、根戸小あびっ子クラブができた当時は2年生であったため、2・3年生の頃はよく利用していました。しかし、4年生になるとクラブ活動も始まり、自分の足でどこにでも遊びにいけるようになったので、今年は登録しませんでした。お友だちの様子をみても、4年生になると、登録はしていてもそれほど利用はしなくなるようです。根戸小学校は、低学年の人数が特に多いので、子どもたちが放課後安心して遊ぶ場所としては、とても助かっていると思います。

(委員長) ありがとうございます。では、続いて一小コーディネーターをお願いします。

(事務局) 第一小学校の報告をします。

一小あびっ子クラブはスタッフ3人で平成19年にスタートしました。その後、今の学童保育とあびっ子クラブの一体的な運営を平成21年度からスタートし、現在に至っています。根戸小での説明にもありましたが、学校の実情に合わせて、あびっ子クラブ及び学童保育室のスタッフ配置は変わってくると考えています。あびっ子クラブは基本的に自由に遊ぶ場ですが、そこに地域の方たちに協力いただき、様々な体験活動を提供している特別活動プログラムがチャレンジタイムです。根戸小あびっ子クラブもたくさんのチャレンジタイムが行われていますが、一小あびっ子クラブでもたくさん行われています。平成23年度は月平均16回、171人の利用がありました。サポーターの方は主に地域の方たちですが、一小あびっ子クラブには、卒業した中学生や高校生もサポーターとして登録し、お手伝いに来てくれています。また、川村学園女子大学の学生も登録してくれています。今年度の登録率については、71.4%となっており、毎年あまり変化は見られません。参加状況は1年生を中心とした低学年が多く、高学年の参加は少ないです。5月1日から1年生の利用がスタートし、毎日30人近い1年生の参加があり、学童保育からの子どもが10人程度、一般の子どもが20人程度という内訳となっています。特別に支援の必要な子どもたちについては、今年度の申請時に「一人での利用が難しいお子さんについては、事前にコーディネーターにご相談ください。」という手紙を出してもらいました。その結果、申請書の備考欄にお子さんの様子を記入してくれる方が増えましたので、その子どもたちが実際にあびっ子クラブをどのように利用するのかを電話で確認することとなっています。現在は、支援学級から2人利用しており、そのうち1人は保護者の方と一緒に週3回程度利用しています。もう1人は、事前連絡がない利用となっていたので、保護者の方にこちらから連絡させてもらいました。保護者のお話しでは、「支援学級に在籍はしているが、自立しているので、見守ってほしい。」とのことでしたので、スタッフみんなで目の中に入れて見ているようにしています。今回、初めて手紙を出しことにより、保護者の方の意識も変わってきたように思います。また、学校の勉強以外で他の子どもたちと遊ぶ場があることは良いことだと思います。運動会の準備のため、体育館は定期的に利用することはできませんが、学校と調整しながら少しずつ利用しています。しかし、今後始まる体育館の耐震工事が心配です。これまで体育館で体を使う遊びをしていたため、工事が11月までかかると体を使える場所がありません。そのため、陸上部が利用している校庭の隅でボール遊びをしないという約束で校庭を利用させてもらうこととしました。学童保育室は20人の新1年生を迎えてスタートしました。5月からはあびっ子クラブも利用できるようになり、毎日目新しいおもちゃで遊んでいます。5月15日には学校の校長先生、教頭先生、担任の先生に招待状を出し、お誕生日会を開催しました。子どもたちはとても喜んでいました。現在の課題は、保

護者の方がその日自分の子どもが学童保育とあびっ子クラブをどのように利用するのかをきちんと子どもと約束しておらず、子どもが勘違いをしていることが多々あることです。今後もスタッフから父母会などで周知していきたいと考えています。以上です。

(委員長)昨年、運営委員会で話し合われた特別に支援の必要な児童への対応については、申請時に子ども支援課から手紙を配布し、1人での利用が心配な場合には事前にコーディネーターに相談するよう促しました。その他、一小的様子についてご意見ありましたらお願いします。

(委員)自分の子どもは学童保育を利用していませんが、あびっ子クラブに登録しています。私自身は、平成19年度一小的あびっ子クラブ開設当初からお習字のサポーターとして参加しています。これまで見てきた中で、予定していたことと変更になることがたくさんあり、その変化に対応していくコーディネーターの力量が大事なのだと感じています。昨年度、話し合いがされた特別に支援の必要な児童への対応についても保護者と関係者が話し合える関係が大切だと感じました。

(委員)一小的あびっ子クラブについては、大分定着してきたと思います。今は特別に支援の必要な児童への対応など、細かなことについても対応できるよう進化してきていると感じました。三小的あびっ子クラブでも、特別に支援の必要な児童はいます。そのための連絡系統やどのように関係者で連携していくのが大切だと思いました。

(委員長)その他、ご意見がなければ三小的の報告をお願いします。

(事務局)第三小学校の報告をします。

三小的あびっ子クラブは、平成22年6月にオープンしました。

今年の登録状況は、全体で72.5%、学年別でみると、1年生から3年生までは90%、4年生が70%、5年生が50%、6年生が38%となっています。昨年度の利用状況からみると、高学年は登録したけれど一度も利用しなかったという子どもが多かったので、部活も始まる4年生以上は、登録が減少したのではないかとみています。昨年度の参加状況は、平均50人程度の利用でしたが、6月のオープン当初は最大で260人の利用があり、とても大変な状況でした。冬の時期に入ると、インフルエンザの流行や近隣市での児童殺傷事件などが相次ぎ、利用がほとんどない日がありました。いつどれくらい子どもたちが来るのかわからないことが、この仕事の大変なところだと感じています。今年度は、5月から1年生の利用がスタートし、毎日とても賑わっています。先日は85人の利用者のうち42人が1年生と約半数を占めていました。1年生は利用開始に向け、4月に授業の中で利用の仕方をクラスごとに練習したため、5月からはスムーズに利用できました。

利用状況としては、学校の授業時間が短い金曜日は、2時に1年生が下校となり、高学年も比較的早く下校できるため、あびっ子クラブの利用が比較的多いです。部活のある子どもたちも4時半に部活が終わりホッとしたいのか、あと30分し

かないのにあびっ子クラブに寄ってから帰る子がいたり、子どもたちも自分たちの放課後の過ごし方を考えながら利用しています。

サポーターの登録は約30人となっており、そのうちの約半数が三小健康クラブに所属している方です。三小健康クラブの活動日にチャレンジタイムを充てているため、登録人数は多いのですが、健康クラブの活動から離れて更に個人で活動してくれる方がいないのが、非常に残念です。今後は、自発的に他のチャレンジタイムもやりたいという方が出てくれることを期待しています。また、川村学園女子大学の学生さんが、特別に支援が必要な子どものサポートに入ってくれており、非常に助かっています。先日も新たに4名の学生さんが見学に来ましたので、今後も連携していけると良いと考えています。チャレンジタイムはこのような状況で種類は少ないですが、ショートテニスや工作、お習字などを実施しました。今月からは、新たにお筆をスタートします。

次に学童保育室の状況です。現在97人登録に対し80人前後の登室があります。これまで、1部屋で100人近い子どもを一同に見てきたのですが、昨年度、スタッフで話し合いを重ね、現在は2グループに分けて運営しています。他のあびっ子クラブと学童保育室は同じ敷地内にあるため、通常、学童保育室の子どもたちは、一旦学童保育室に登室してからあびっ子クラブを利用していますが、三小学童保育室は、学校の敷地から少し離れたところにあるため、学童保育の子どもたちは直接あびっ子クラブを利用しても良いことになっています。そのため、あびっ子クラブに学童保育の子ども用の受付が設置されています。今年度も学童保育とあびっ子クラブ、保護者と子ども、地域の方と協力して進めていきたいと思いをします。

(委員長) 先ほど、川村学園の学生さんのお話がありましたが、川村学園としてはどのような関わり方をしているのでしょうか。

(委員) 勉強のために参加させてもらっている学生や、ボランティアとして自主的に参加している学生がいます。

(委員長) ここまで、3校について報告させていただきましたが、その他ご意見がありましたらお願いします。ないようでしたら、次の議題に入ります。

(4) 平成24年度あびっ子クラブ登録状況について

(事務局) 一小、根戸小、三小あびっ子クラブの平成23年度と平成24年度の登録状況をお示ししていますが、平成24年度は若干低くなっているものの、65%から73%の登録率となっています。学年別にみると、どこのあびっ子クラブも低学年の登録率が高く、特に1年生は90%以上の登録率となっています。それに対し、高学年になるにつれて登録率が減少しています。部活や習い事が始まる4年生からは、減少してくるという状況です。以上です。

(委員長) 登録状況についての報告でしたが、ご意見がありましたらお願いします。ないようでしたら、次の議題に入ります。

5. 今年度の取組みについて

(1) 各あびっ子クラブ及び学童保育室の活動状況について

(委員長) 今年度は、湖北台西小あびっ子クラブが6月にオープンしますので、現在の進捗状況も含め報告をお願いします。

(委員) 6月1日のオープンに向けて、スタッフ一同準備を進めています。湖北台西小は4校目となるため、既に開設しているあびっ子クラブの運営を参考に、試行錯誤しています。登録受付が4月下旬からスタートしていますが、現在の登録状況は、全校児童数423人に対し、237人の登録となっています。1年生2年生が95%、3年生4年生が80%、5年生6年生が30%の登録率となっています。あびっ子クラブのメインルームが学童保育室の裏手にあり、保護者も子どもたちもまだよくわからないようで、メインルームの前を通りながら「あっ、ここがあびっ子クラブなんだ」と気づき始めています。他のあびっ子クラブの1年目の状況を聞いても、スタートしてから利用した子どもの話などで伝わり、やっぱり登録したいという状況があるようなので、これからも登録する子どもがいるのではないかと考えています。先日、体育館や校庭、昇降口の利用について教頭先生と相談しました。また、隣の地域交流教室が月・火曜日空いていたので、1年間継続して利用できるよう申請しました。開室日の1日が金曜日なので、どれくらい子どもたちがくるかわかりませんが、当日の状況をみて学校側と調整することとなっています。学童保育の子どもたちの利用の仕方については、スタッフ間で相談し、ルールづくりをしています。まずは、子どもたちに「こんな遊び場があるんだよ。」ということを知り、楽しく自由に遊んでもらうことを目標とし、その後、チャレンジタイムを検討していきたいと考えています。サポーターの方は、現在2名登録していますので、みなさんと協力してスタートできるようがんばっていきたいと考えています。

(委員長) これからできる湖北台西小あびっ子クラブについて、ご意見ををお願いします。これまで、市で説明会や写真を掲示するなどの普及活動をしてきましたが、あびっ子クラブについてわからないことはありますか。

(委員) 今日の話聞いて、少し内容がわかったので、安心しました。

(委員) 自分自身、子どもが4・3・1年生と3人いるのですが、1番下の子どもが幼稚園の時からあびっ子クラブのある学校の保護者からお話を聞いたり、市の方からの説明やパンフレットではイメージがわからなかったのですが、他のあびっ子クラブの子どもたちの様子を写真で見ると、とても楽しそうな様子がうかがえるので、子どもたちは楽しめるのかなと思っていました。きょうだい同士で遊ぶことはなかなかないので、あびっ子クラブでいろいろな友だちを増やしてほしい、期待しています。

(委員長) 3人ともあびっ子クラブに登録しましたか。

(委員) 一番上の4年生は登録していません。自分の思う通りに活動したい頃なのか

と思っています。あびっ子クラブを利用した友だち同士で楽しい場所だということになり、それが保護者にも伝わればよいと思います。

(委員長) その他、ご意見ありますか。ないようでしたら、次の議題に入ります。

あびっ子クラブにおける特別に配慮が必要な児童の対応について

(委員) まず、あびっ子クラブにおける特別に支援が必要な児童についての対応について補足説明させていただきます。学童保育室においては、子どもたちを安全にお預かりする施設として特別に支援が必要な児童に対応するために必要なスタッフを配置しています。あびっ子クラブは子どもたちが自由に参加する場であるため、特別に支援が必要な児童に対応するためのスタッフを配置していません。しかし、昨今の学校の状況をみると、特別支援学級に在籍している児童だけでなく、普通学級にもお友だちとコミュニケーションが取れずトラブルになってしまう子や自分の意思がうまく伝えられずお友だちに手を出してしまう子など、なんらかの支援を必要としている児童が非常に増えています。これまで、なんらかの支援を必要としている児童については、保護者から何も情報が得られないままコーディネーターを始めスタッフがいろいろな工夫をしてあびっ子クラブで受け入れしてきました。しかし、突然子どもが遊びにきてお友だちやスタッフとトラブルになるケースが多々ありました。そんな時、事前にその子に関する正しい対応を知っていれば、もっとよい対応ができ、トラブルを回避することができます。そこで、本委員会でも話し合いを重ね、あびっ子クラブの申請とともに、「あびっ子クラブの利用にあたり、1人での利用が難しいおひさまは、事前にコーディネーターにご相談ください。」という内容の手紙を全世帯に配布しました。その結果、直接の相談ではなく、申請書の備考欄に詳細を書いてきた方が多数いました。そこで、備考欄に記入のあった方については、コーディネーターから電話で話を聞くこととしました。また、これまで学童保育専任として配置されてきた心理相談員をあびっ子クラブにも巡回させ、保護者との話し合いなどが必要な場合には、同席することとしました。3月から三小あびっ子クラブ及び一小あびっ子クラブには巡回相談を開始しています。昨年、運営委員会においてご意見をいただきました『社会福祉協議会のボランティア相談窓口』を周知するためのお知らせについては、ポスターを作成し、学童保育室及びあびっ子クラブに掲示することとしました。しかし、特別に支援が必要な児童に対応するためのボランティアさんを募集することは、社会福祉協議会においてもデリケートに対応しているため、コーディネーターを通じて社会福祉協議会と協議することとしました。また、普段サポートの方がいないため、あびっ子クラブを利用したくてもできない子どものために、夏休みにボランティアを募り、受け入れられる日を設定しようと検討しています。今後の状況については、随時報告します。以上です。

(委員長) 報告について、ご意見がありましたらお願いします。

(委員) これまで我孫子市の教育研究所で行われていたSST(ソーシャル・スキル・トレーニング)事業が事業仕分けで廃止され、今後どのように対応していくのか心配していましたが、教育研究所のような特別な場所に行くのではなく、あびっ子クラブのような遊び場で友だちと関わりながら自然にコミュニケーション力などを見つけられたらよいと保護者は願っているであろうと思います。しかし、これを実現するには、現在のあびっ子クラブのスタッフ体制では非常に厳しく、試行的に夏休みの受入れ日を設定するという案がありましたが、実施に向けて課題はたくさんあると思われます。

改めて実施要綱を見直すと、検証・評価をすることが運営委員会の任務となっているため、特別に支援の必要な児童への対応やトラブルなどについては、今後、運営に関する報告に指標を定めて検証・評価し、報告すべきではないかと考えます。その他、各コーディネーターから、校庭や体育館など施設利用に際しての学校との連携に苦慮しているとの報告もありましたので、そのような指標もあってよいのではないかと考えます。様々な指標を設定し、検証・評価していくことが今後の運営に生かされるのではないかと考えます。

(委員長) 今後は、指標についても検討し、検証・評価の仕方を検討していきたいと考えますので、その際には、大学にもご協力いただけるとありがたいです。

その他、ご意見ありましたらお願いします。

(委員) 先ほど、事務局からの説明にあったように、学童保育室とあびっ子クラブの違いが就労支援の場と自己責任の場であること、特別に支援の必要な児童の受入れのためにどれだけスタッフが苦勞しているのかなどを理解してもらうことは難しく、今後の課題だと感じました。たくさん子どもを受け入れるために門戸を広げるとともに、自己責任の場という意味では、どこかで一定のラインを引かなくてはいけないのではないかとということも感じました。

(委員長) その他、ご意見がありましたらお願いします。ないようでしたら、次の議題に入ります。

(2) 平成24年度放課後対策事業における主要事業について

(事務局) 昨年度の2月に行われた運営委員会において、予算編成状況を含めて報告させていただきました。その後、予算が確定しましたので、新規事業の予定及び進捗状況を報告します。

まず、放課後対策事業全般における放射線対策事業についてです。

皆さま、既に広報やホームページなどでご存じの方もいらっしゃると思いますが、我孫子市においては、全ての小中学校の除染工事を実施します。小学校においては、1学期から夏休みにかけて、中学校においては夏休みをメインに実施を予定しています。

学童保育室の大半が小学校の敷地内にあるため、学校施設については基本的に教育委員会が実施してくれる中でお願いしています。学校管理敷地外にある高野

山小・根戸小・三小学童保育室については、別途子ども支援課で実施します。高野山小学童保育室前の広場については、現時点で放射線量は高くありませんが、安全性をより高めるために6月に補正予算を要求し、実施する予定です。実施時期については、高野山小学校の他の工事と調整を図りながら、8月中に実施できるよう検討します。根戸小学童保育室前の駐車場については、試験的に様々な手法を実施しており、効果的な手法を模索しています。また、各学童保育室及びあびっ子クラブの部屋の中については、定期的にスタッフが計測し、市ホームページなどで情報公開しています。小学校における除染対策工事は、1学期から8月までに実施されるため、実施にあたっては、教育委員会と常に情報交換をしながら調整していきます。なお、この除染工事により、基本的に小学校の校庭及び体育館の利用は禁止となり、夏休みのプール開放も中止の予定となっています。そのため、あびっ子クラブの利用も若干少なくなるのかと予想しています。

次に、あびっ子クラブについてです。

今年度、6月1日に湖北台西小あびっ子クラブをオープンします。また、5校目のあびっ子クラブについては、湖北台東小学校に決定しました。

湖北台西小にあびっ子クラブのオープンが決まり、地域の方に説明をする中で、地域の方たちから次は湖北台東小にも作ってほしいというご要望を多数いただきました。また、学校からもメインルームとなる教室を提供していただけたらというお話をいただきましたので、5校目として決定しました。

次に、学童保育事業における新規事業についてです。

1点目は並木小学童保育室床補修工事です。数年前にシロアリによる侵食が発見されて以来、予算要求を続けてきたものが今年度予算化されました。実施時期は夏休み期間の7から8月を予定しています。

2点目は携帯電話の配置です。数年来、保護者から要望が上がってきましたが、3・11の震災時に通信手段として最も有効であったメール配信を各保育室でできるよう、携帯電話を配置します。

3点目は、四小学童保育室新築工事に伴う設計業務についてです。急速な小学校の児童数増加に伴い学童保育の需要も増加している四小学童保育室を平成25年度、小学校の敷地内に新築することとなりました。そのため、今年度は、設計業務を実施します。学童保育保護者の方には、5月16日に説明会を実施しました。業者は5月末に決定します。

最後に災害支援ボランティアについてです。

3・11の大震災を受け、保護者が勤務地から帰宅できなくなった場合の学童保育やあびっ子クラブの子どもたちへの対応をお手伝いしていただくためのボランティアを検討しています。昨年度から検討しており、現在あびっ子クラブが設置されている小学校と個別に話し合いをしている中では、「学童保育だけでボランティアを募るのはどうなのか。」「学校で立ちあがっている学校支援ボラ

ンティアと連携していくべきであろう。」というご意見をいただいています。また、地域の方からも「市長部局だから教育委員会だからと同じ地域の子どものボランティアをお願いする時に別々に動くのはおかしい。一本化するべきである。」とのご意見をいただいています。そこで、学校支援ボランティア事業と連携できるよう、調整を進めています。今後の進捗状況については、随時運営委員会で報告していきます。以上です。

(委員長) 追加報告ですが、今年の夏も節電対策が行われます。市では、公共施設については15%の節電目標が出されました。子どもたちがいる施設については無理な節電はしませんが、スタッフしかいない時間など極力できる時間にできることをするよう努めたいと考えています。以上で議題は終了となりますが、全体を通してご質問ありますか。

(委員) 子どもに関する事業については、地域やPTAの方などの協力が必要であると感じています。生涯学習の観点からもサポートできればと考えています。

(委員) 青少年相談員の中で出ている話は、除染作業による影響です。青少年相談員も普段働いている方が多いので、夏休みにイベントを実施することが多いのですが、今年は除染作業が夏休みに実施され、現時点で明確な実施期間もわかっておらず、非常に苦慮していますが、子どもたちがたくさん集まってより楽しくできるイベントを考えています。

6. その他 今後の運営委員会の日程について

(委員長) 第2回以降の運営委員会の日程を報告します。今年度は、会議室を確保することが難しいため、あらかじめ日程を決めさせていただきました。

第2回 8月20日(月) 9:30から11:30まで(市役所分館大会議室)

第3回 11月19日(月) 9:30から11:30まで(市役所分館大会議室)

第4回 2月13日(水) 9:30から11:30まで(教育委員会大会議室)

(委員長) 皆さま、ご意見ありがとうございました。

以上で本日の運営委員会を閉会します。

【閉会】